

2020 JA 共催カップ OFA 第34回沖縄県U-11サッカー大会

優勝 FC西崎

準優勝 たきばる東 Jr

3位 志真志 SS

4位 Wウイング沖縄 JFC

【戦評】

優勝した西崎は攻守のバランスが良く、対戦チームに影響を受けることなく自分たちのプレーをやり続けていた。特に中盤の7番から10番へのフィード。10番9番のバランスをとった攻め。6番のサイドからの展開と守備の意識。2番の1対1の守備の強さ。11番のかかわり続ける意識。等良さをしっかり出せていけたことが優勝へつながった部分ではないかと思われる。

反面、課題がいくつか見られるので指摘していきたい。

GKは体も大きく反応もそこそこできるが、守備の意識が強すぎてゴールマウスに張り付くポジション取りが多い。相手パスの意図を観て自分のプレーを判断し実行できるとDFが守備の時間に割く部分を少なくし、より攻撃の幅を持たせることができると思われる。(つまりゴールマウスだけが守備位置でなくセンターライン近くまで活動を広げる意識を持つこと)

FPではチャンスとピンチの時間帯でのプレーを変えてみることを勧めたい。10番の特徴をわかっているのに、マイボールにしたときに10番をターゲットにしていることは選手個々の共通認識であると思われる。しかし、常に同じことを繰り返し相手に対応してくると10番の消耗度が気になる。10番の走力をしっかり活かしていくためにもより良い選択をしていく指導をしていただきたい。

次に、U-12年代につなげる部分について触れていきたい。

スキルの多様化

選手個々のスキルは年々向上してきていて数年前と比較すると獲得しているスキルが多様で、見ても何かが起こりそうに思えて楽しみがある。しかし、精度が低くうわべだけのスキルとしか思えない部分が大多数である。そこで少し意識を変えてみることを意識して観てみたい。

攻：選択肢が多様化し、それに対応していくスキルも数多く取得していかなければならないが持っているスキル以上の物を要求されることが起きてしまっているのではないかと。トレーニングでいかに対応できているか？

守：基本の徹底が望まれる。守備の鉄則(3原則)をしっかり意識させたい。うでの要求か？

攻⇄守の素早い切り替えを意識したトレーニングになっているか？**ジュニア年代での理解が次のステージでのステップアップにつながる**ことを意識して指導を続けたい。

パス：全体として精度が低い。特にゴール前でのラストパス、味方に次のプレーの意図を伝えるためのパスになっていない。正確にスピーディーにを求めていくことが肝要である。常時活動での習得を目指して指導していきたい。

コントロール：ボールを狙い通りにしっかり収める能力が低い。対人での関係でプレーが成り立っていない。基本のトレーニングの中から相手との関係を意識

させることが必要。

観る：常に意識的にやれている選手はいない。日常化が言われて久しいが、具体的な部分の指導が欠如していないか？単に首を振ることで良しとしていないか？日常化で必要な部分をしっかり伝えきれているのか？…何を…いつ…どのように細かく分析した指導を必要としていないか？

リーグ戦について

リーグ戦との関連でいうと、地区のリーグ戦で選手に身に着けさせる能力は何か？

指導者も同様で、単にその日のゲームを乗り切るだけの取り組みでは折角のチャンスを逃すことになってはいないか勿体ない。

上述の場面を意識し、課題性を持って活動し選手に伝えることができているならばスキルアップがみられるようになるのではないだろうか？日常のトレーニングで選手のサッカー環境を作っている部分は指導者の努力によることが大きいのだが、その中に今一步踏み込んでみてはどうだろう。選手の将来の一端を担っているという指導者の誇りを見直すチャンスではないだろうか？

【例】

①年間計画を作ってみよう

ジュニア委員会から示されるカレンダーに基づいて、チームの目標を明確に示す。

期間	4・5・6月	7・8月	9・10・11・12・1月	2・3月
	育成期・課題発見期	伸長期	目標達成・挑戦期	課題見直期
内容	基本のトレーニング	基本+チーム課題	基本+ゲームの基本	個の意識への働きかけ
取組み	リーグで課題の洗い出し デイリーワークで求める もの見極め	リーグで確認 課題克服の 取組み	リーグで取組みの確認 大会を通して取組み内容の成果確認	チームの取組み 反省と次年度の 課題洗い出し
評価				

ここではリーグ戦参加を念頭に置いているが、リーグ戦に参加しない場合は練習試合での取組みに変えてみるとよい。

②日常での取組み

デイリーワークで取り組む内容

- 1) パス&コントロール：個人スキル 正確に止める蹴る、考えている方向に運ぶ
やさしい → 難度を挙げて（対人）
- 2) 1対1：個人スキル（ドリブル、フェイント、ターン） 対人で負
個人戦術を磨く

③期間に応じて

個人戦術～グループ戦術を取り入れて+チーム戦術

1対1～5対5

チーム戦術を取り入れて（個人戦術を通り越してこれだけ指導することは避けた

い）